

# ニュージーランド最終兵器購入

## コーワハイランダープロミナー双眼鏡

桑田 直宏

ハイランダープロミナー(以下ハイランダー)は、キャベジンや双眼鏡で有名な興和が製造している大口径アポクロマート双眼鏡。口径 82 mmのフローライトレンズを使い、接眼鏡を変えることで 21 倍、32 倍、50 倍になる。重量は約 6 キロもあるので専用の架台や三脚に固定して観望する必要があるが、その評判は非常に高く、特に星像のシャープさは他に例がないほど評価されている。

15 cmフジノン双眼鏡があるのにどうして中口径の 8 cmを買うのかと思われるかもしれないが、この年齢になると、15 cmフジノンを 1 人でセッティングするのは命がけになる。過去にフジノン本体を持ち上げて架台に載せることが出来ず、持ち上げたままで力の余裕がなくなり、もう少しで自分の頭に向けて落としそうになった。フジノンは固定して使用する双眼鏡として、遠征はハイランダーと使い分けをすることにした。せっかくならとニュージーランド遠征に向けて購入した。

ファーストライトは納品された日の夜に行った。月明かりがある中、組み立てて観望してみた。本体はアルミダイキャストになっているのでがっしりとしている。専用架台はよくできていて、簡単に双眼鏡本体脱着できてフリーストップになる。これなら暗い中でも一人でセッティングできると思った。

標準の 32 倍接眼鏡を取り付けてオリオン座付近に向けてみた。左右のピントを合わせ、目幅を調整して観望を開始した。第一印象で感じたのは、今までに見たことがないスッキリとした星空が広がっていることだった。定評のあるフジノン 15 cmやキャノン 10×42L をずっと使ってきた自分は双眼鏡に対して要求するレベルは高い。どうしてこんなに視野の中の夜空がきれいなのか考えてみた。ひとつはフジノンの瞳径は 7 ミリと明るすぎるため、光害のある空では視野全体が白っぽくなり、かえって淡い星雲がよく見えないところがある。それに比べて 32 倍のハイランダーは瞳径が 2.6 mmなので、バックの夜空が適度に暗くなり、それがすッキリとした印象になっているように思う。もう一つは対物レンズがフローライトレンズを使用していることで恒星は針の孔をついたように小さく輝き、星の色も個々に違いが判る。さらに視野の端でもほとんど収差が気にならないのが好印象につながっているようだ。

アポクロマートレンズのフジノンもよく見えるのだが、ハイランダーと比べてしまうと「アポクロマートにしては高性能」ということになってしまう。一番の違いは月を見ればよくわかる。ハイランダーで上弦の月に向けてると月の淵の色付きがなく、高性能なアポクロマート屈折と同じ見え方だった。

10 年前のニュージーランドは観望目的で 7.6 cmアポ屈折とキャノン防振双眼鏡を、オーストラリアでは 15 cm シュミカセと双眼鏡を持って行った。15 cmで観望したオメガ星団や NGC104 の球状星団、タランチュラ星雲もすごかったが、一番に印象に残ったのは 15×45 防振双眼鏡で見た南天の星空だった。

世界でも有数の暗い夜空があるテカポ。ハイランダーで南天の天体がどのように見えるかワクワクしている。

